

三番瀬再生実現化勉強会の開催結果（概要）

- 1 開催日時 平成19年10月31日（水）午後6時30分から9時5分まで
- 2 場 所 船橋市東部公民館講堂
- 3 出席者 委員9名
- 4 参加人数 40名
- 5 配布資料 平成18年度三番瀬再生実現化検討調査報告書

6 結果概要

(1) あいさつ

三番瀬再生実現化試験計画等検討委員会の倉阪委員長から開催経緯等を含めたあいさつがあった。

(2) 内 容

平成18年度三番瀬再生実現化検討調査報告書について

県からパワーポイント及び報告書により説明があり、それに基づき質疑応答が行われた。

(主な意見)

干潟的環境形成・淡水導入について

- ・ 試験は目的があって実施するもの。どの程度の試験を想定し、試験の目的はどこにあるのかははっきりさせてもらいたい。また、事例については、三番瀬は特殊な海域である。三番瀬に関する事例の収集はしていないのか。
- ・ 報告書を作成した次の段階はどうするのか。報告書は総花的な内容であり、次のステップに進むためには再整理する必要がある。

いろいろな事例の背景にあるものを捉え、その場に必要改善対策を考えるべきである。現在の環境を把握しないと改善策を考えられないので、現段階では、予測できない。ある時期だけのデータではなく、面的に状況がわかるようにしてもらいたい。

何のために干潟を作るのか、アサリを対象とするのか。

- ・ 干潟の具体的な試験を検討する前に、先行事例を分析し、学ぶことが必要。長良川・揖斐川は削られており、五日市は圧密で沈下しており失敗といえる。

整理の仕方として、物理的に干潟的環境を維持できているのか、何を目的（生物多様性、漁業の生産性、レクリエーション等）として作ったのかをチェックして、使える例を整理すべきである。

- ・ 干潟の事例を羅列しているが、どういう目的でどういう干潟を作ろうとしたのか。また、規模によっても違って来る。
- ・ 何を取り戻すかを定めることが大事である。トータルとして何をやるべきかを考えないとダメ。今挙がっている試験では、再生に資するようになるのかが疑問。生物の生活史を踏まえた試験が必要である。
- ・ 猫実川での試験について言えば、旧江戸川からの水は塩分が含まれている。

自然再生（湿地再生）事業について

- ・ チェサピーク湾の事例はゴールが設定され、それに向けて事業を進めた良い事例。これを見習って、目的をはっきりさせてもらいたい。
- ・ 参考資料に企業庁の事例等があり、分析を加えている。もっと、県内の事例を参考にすべき。
- ・ 95～98 ページの水質浄化について記載しているが、アナジャコやカキも水質浄化に寄与していると思う。
- ・ 今後の事業を進めるのに当たり、イメージを持つこと必要。試験をスタートするといろいろな不都合が生じる。
- ・ 報告を聞いて、もっと再生会議での検討する時間が必要と感じた。
- ・ うまくいった事例だけでなく、上手く行かなかった事例についても、どこがダメだったのか等を整理すべきである。
- ・ 護岸委員会とも関係するが、護岸脇に砂を於いて見たらどうかと提案した。やれることはやってもらいたい。

【委員長のまとめ】

勉強会の成果を基に、委員には検討委員会で意見をいただきたい。

県においては、勉強会での意見等を参考に事業を進めてもらいたい。

以 上